



第18回

医療連携講演会・懇親会を開催 新谷院長が在宅医療28年の 経験を踏まえ特別講演

6月27日に「第18回医療連携講演会及び懇親会」が本院の3階講堂で行われました。連携医療機関からこれまでで最も多い159名の皆様に参加され、院内の医師などを含め合計274名の参加となりました。

特別講演は、本院の新谷院長が「当院における在宅医療・訪問看護の28年」地域医療構想調整会議も踏まえて「というタイトルで、現在の医療情勢と今後の動

向、また本院の28年間の在宅訪問看護の経験から学んだ点などについて講演しました。



特別講演を行う新谷院長

日本人口動態の推移について、新谷院長は「日本の人口は明治維新の頃に爆発的に増加し、2004年(2008年にピーク)に達した。その後毎年減少しており高齢化も進んでいる。ただ2040年以降は高齢化率の安定化(高齢者を75歳以上とした場合)が予測

されており、現在はその過渡期である」とグラフを示しながら述べました。また病院を受診する患者数が減少している背景について、「2000年頃からサラリーマンの可処分所得が減少し、地域の百貨店も徐々に減少した。これらと

並行して患者数の減少も見られる。」と分析しました。さらに本院の在宅医療の経験を報告しながら、在宅医療の生存に影響する因子は「年齢」と「嚥下障害」であると述べ、認知症患者の終末期や回復不可能の症例の人工栄養の問題点についても紹介しました。



懇親会の様子

医療福祉相談室の名称が**社会福祉部**(医療福祉相談室)に変更されました



医療福祉相談室の名称が「社会福祉部(医療福祉相談室)」に変更になりました。業務内容はこれまでと同じです。退院後の生活や介護、医療費のことなど心配事や不安について、社会福祉士がご相談をお受けし、患者さんとご家族をサポートいたします。直接ご来室いただくか、主治医、看護師などスタッフへお申し出ください。

LEADER

NEW

リーダーに聞く

助産師の
専門資格を取得

新棟4階(産婦人科・女性一般病棟)の松村師長にお話しを伺いまし



新棟4階病棟師長
松村 淳子

松村師長は看護学生時代に当院で実習し、その後茨城県立中央看護専門学校助産学科に進学。その後当院に就職しました。「実習の時に、学生への指導内容や教育体制が充実しており、ハイリスクな患者さんへの

万全な対応など自分が助産師として成長できる病院だと思えました」と当時の思いを語ってくれました。平成8年に入職後「アドバンス助産師」の資格や「マタニティエアロピクス」、「マタニティヨガ」のインストラクターの資格を取得。毎月、妊婦さんへの指導を行っています。また、行政と連携して産後ケアのサポートも行っていきます。

多様な場面に
対応する
助産師の育成を

新棟4階には2017年から女性一般病棟とし

の機能も加わりました。「病氣と闘っている患者さんと、お産を控えている妊婦さんのどちらにも安心して療養生活を送っていただける看護が求められます。複数の診療科の患者さんが入院される混合病棟の看護は大変ですが、最近ハイリスク分娩など、合併症を抱えた妊婦さんへの対応も求められて来ていますので、助産師にとって貴重な体験になると思います。ひと回り大きな助産師に成長する機会として捉え頑張りたいと思います」

「7月から新たにもう一校、助産師を目指す学生

さんの実習を受け入れます。実習指導した学生さんが卒業後当院に就職して下さると、助産師として成長していく姿と一緒に感じることで、指導する側の自信にもつながります。将来、安心して安全な看護を提供できるように、学生を育てるのも私たちの役割だと思います。

「今後もスタッフ自身が多様な分野で成長していけるようにサポートし、患者さんや妊産婦さんの多様なニーズに対応できる看護師、助産師を育成していきたいと思っています」

場所

3階東棟 社会福祉部(医療福祉相談室)
1階アドボカシー室(総合受付横)

受付時間

月～金曜日 午前8時30分～午後5時
土曜日(第1・3) 午前8時30分～午後0時30分
*祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は除く

骨粗鬆症と骨折予防(10)



ヒトの歩行 Part 1

整形外科部長
鈴木 康司

骨粗鬆症の話も終盤になりました。最後に私たちの「歩行」について考えていただきたいと思います。

「またのコマーシャルでは骨粗鬆症と」といつの間にか骨折」とを結びつ

人はなぜ二本の足で歩けるのでしょうか？外見上、ペンギンも直立二足歩行に見えますが、実はペンギンは足を折り曲げています。

なぜ直立二足になったかは移動の効率を良くしたい、両手を自由にした、遠くを見通すなど様々な仮説がありますが本

けていますが「いつの間にか骨折」は骨粗鬆症の方にはおこるものではない健康な方でもおこり得ます。根本的にはヒトが二本の足で歩くためです。ただの二本の足で歩くわけではなく、せぼね、股関節、膝関節すべてを直立させてあることで「直立二足歩行」をしています。

● 私たちの歩き方の特徴は

- 左右対称に歩いている。
- 上体はあまり揺らさずに歩いている。
- 足先は地面「すれすれ」を通過する(クリアランス)といえます。ですから私たちは少しの段差で躓いてしまいます。
- 実は重心は微妙に上下動していて、重力を上手く利用して歩いている。
- 右足のつぎは左足が無意識にでる(Central Pattern Generator)として脊髄レベルに「発生器

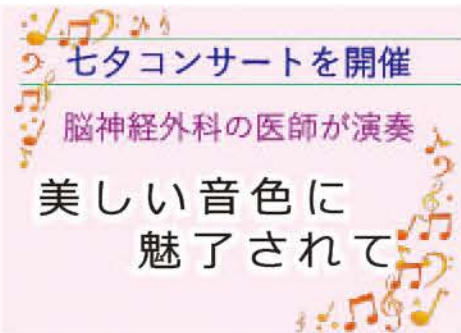
本日のポイント

直立二足歩行とは、実は大変なことをしています。

「があるためです。だから「ながらスマホ」ができてしまうのです」

● 踵から接地する(ロツカーフアンクション)といえます。ロツカーとはロツカーチェアーのように、踵↓足首↓前足に回転中心を移動させて効率よく歩いています)

7月6日の午後、当院のエントランスホールで七夕コンサートが開かれました。患者さんに季節感を感じて頂きたくらいで頂きたいと、当院の



七夕コンサートの様子



山内医師(左)と上田科長(右)

CS委員会が主催して毎年七夕とクリスマスホールの時期にエントランスホールでコンサートを開催しています。CS委員会委員長の血液内科伊藤部長が挨拶した

後、当院の脳神経外科科長の上田医師のバイオリン演奏と、同じく脳神経外科の山内医師のピアノ演奏が披露されました。「愛のあいさつ」(Edward

Elgar)など4曲が演奏され、エントランスホールを埋めた車いすの患者さんなど約120名の皆さんは、二人の先生が奏でる美しい音色に魅了されたようにじっと聴き入っていました。

演奏後には大きな拍手が鳴りやまずアンコールの演奏もおこなわれました。前の方で車いすに乗って聴かれていた患者さんは「ピアノといい、バイオリンといい、すばらしい演奏でした。ありがとうございます」と笑顔で話されていました。

「手足口病」にご注意ください

「手足口病」の患者さんが茨城県内でも増加しており、流行警報が出されました。今後も感染が拡大する恐れがありますのでご注意をお願い致します。「手足口病」の疑いがある場合には、必ずマスクを着用して外来を受診して頂くようお願い致します。

手足口病とは

手足口病は接触感染・飛沫感染でうつる乳幼児に多い感染症ですが、成人が感染する場合がありますので注意が必要です。

合併症

髄膜炎
小脳失調症
脳炎など



予防

- ①手洗いをしっかり行う。
- ②手足口病は、症状が軽減した後もしばらく便などにウイルスが排出されるため、排泄物は適正に処理する。
- ③タオルは共用せず、個人用タオルを準備するか、使い捨てタオル(ペーパータオル)を使用する。
- ④患者さんの水疱内には、感染性のあるウイルスが含まれているので、接触しないよう注意する。

症状

3～5日の潜伏期の後、口腔粘膜、手、足などに水疱性の発疹が現れます。発熱を認める場合もありますが、あまり高くないことがほとんどです。



一般撮影室「6室」の室内



一般撮影室「7室」の室内

RENEWAL

放射線部
一般撮影室

あかるく
やさしい
雰囲気

患者さんの気持ちも和らぐようにと、撮影室の中を「水族館風」と「動物園風」に飾り付けました。

人の動き

採用(6月)
大野 友里恵 看護部
吉田 麻里 保育所